

高等学校地理Aにおけるワンポイント巡検の実践事例… 1

— 中学校地理分野の学び直しを軸として —

今野 実土里（北海道白糠高等学校）

- 1 対象学年・学級：高等学校3年地理A選択者
- 2 教科・科目：地理A
- 3 対象地域：北海道白糠郡白糠町周辺
- 4 単元名：身近な地域の調査
- 5 単元の目標

| | |
|-----------------|---|
| 地理的事象への関心・意欲・態度 | 自分たちが居住する地域の現在の様子・変遷の過程に対する関心を深め、未来の地域づくりの担い手としての自覚を高めることができる。 |
| 地理的思考・判断・表現 | ワンポイント巡検・地形図の読み取りを通して、地域の特色や課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を文章などで表現することができる。 |
| 資料活用の技能 | ワンポイント巡検を通して得た情報・地形図から得られる情報を適切に選択し、地域の特色や課題を地図・文章という形式でまとめることができる。 |
| 地理的事象についての知識・理解 | 身近な地域の理解・調査に必要な、主として地図に関する基礎的な知識を身に付け、実際に応用することができる。 |

6 単元の指導計画

| ○=時数 | 主な内容 |
|--------------------------------------|---|
| ①「地図」の意味について考え、慣れ親しむ。 | 地図の用途に関する新聞記事の読解や、「スノーのコレラマップ」などいろいろな主題図の読解を通して「生活に即した場面で地図が必要である」ということを理解させるとともに、国土交通省国土地理院から地形図が発行される理由・地形図の利用方法について考察する。 |
| ②③④地形図の読みとり技能を身に付ける。 | 前時の学習内容を生かし、実際に地形図を読み取り活用する技能を身に付ける。 |
| ⑤⑥身近な地域の現在の姿に注目する。（ワンポイント巡検第1弾） | ワンポイント巡検を通して、高校周辺地域の現在の姿を正確にとらえる上で必要な情報資料を収集する。 |
| ⑦⑧身近な地域の変化の経過をとらえる。 | 旧版地形図の読解を通して、自然地形の変化・土地利用状況の変化を読み取る。 |
| ⑨⑩身近な地域の変化の過程を目で見てとらえる。（ワンポイント巡検第2弾） | 旧版地形図を使用したワンポイント巡検を通して、高校周辺地域の変化の過程がわかる情報資料を収集する。 |
| ⑪⑫身近な地域の将来の姿を考える。 | これまでの学習内容をもとに、各人のテーマに基づいた白糠高校周辺の略地図作成を通して地理的技能を身につけ、地域の現在の姿・今後予想される地域の姿に関して考察する。 |

7 ワンポイント巡検の実践

(1) テーマ・目標

ワンポイント巡検を通して、高校周辺地域の「現在の姿」「変化の過程」を適切に理解するために必要な情報資料を収集する。

(2) 実施年月日

2013年10月18日・25日

(3) 実施形態

地理 A 選択者全員で実施した。引率は地理 A 担当教諭である著者と社会科教員 1 名である。授業時間 50 分間で「集合・巡検・解散」までを行った。

(5) 観察方法

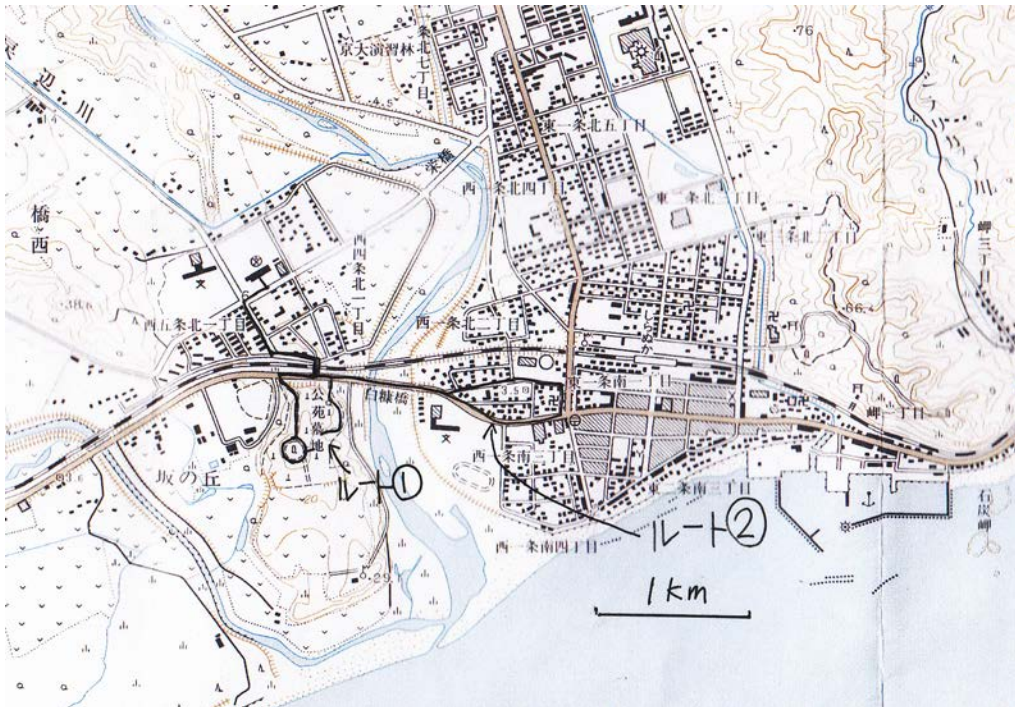
① 10月18日実施分

海岸部にある「坂の丘公園」を目的地とし周辺地域の地形や植生の様子を、地形図を見ながら確認させる。また、「線路」「墓地」「記念碑」といった地図記号を実際に目で確かめることにより、地形図がつけられる意義を再確認し「地形図の読図」に慣れさせる。

② 10月25日実施分

町役場南側の公園敷地内にある「準基準水準点」を目的地とし水準点の実物を見ながら、立地や設置される理由を確認させる。

※ ①・②のルート地図



8 今後の課題

今回の実践は筆者が中学校から高等学校へ異動後、初めて地理 A を担当した年に行ったものである。この高校では卒業後の進路に就職を選択する割合が高いため、地理の学習は最初で最後の機会となる生徒が多い。また、学級の構成も教育困難層を含むため中学校社会科地理分野の学びなおしを重点的に行い、読図や距離計算など「生活に必要な地理」を学ばせる必要があった。

このため、高等学校地理 A の内容を扱うことよりも先に、学ぶことに向かわせる姿勢を確立することが最優先事項となった。生徒の実態に合わせて、学びなおしを取り入れることで「社会に出て生活していくうえで地図（地理）は絶対必要」ということを強調することが可能ともなった。

いかなる学校に赴任したとしても教える側があきらめないことが授業を实践する上での絶対条件である。その姿勢がなければいかなる指導案を作成したとしても授業は成立しない。今回のワンポイント巡検の指導を通してこのことを痛感した。